



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 高知市教育研究所研究員 全体実践発表（公開授業）

令和3年11月25日（木）実施

**目的** 研究員全員で、授業を参観して気付いたことを整理し、明確になった成果や課題を共有することで、それぞれの実践研究と重ね合わせ、今後の研究の深化につなげること。

### 高知市立潮江南小学校 畠山 佳之 研究員

研究員全員を対象とした学びの場の一つとして位置付けられている全体実践発表。今年度は、潮江南小学校を会場に公開授業が行われました。畠山研究員は、「言語活動で思考の深化・変容を表現し合う算数授業」の創造を目指し、研究に取り組んでいます。今回は、第5学年の算数科「変わり方を調べよう」の授業を公開しました。授業では、数え棒の並びから2量の変わり方についての規則性を見だし、変化や対応の特徴を考察した上で、式にして一般化を図りました。その際、式と図を関連付けさせる対話的活動を仕組むことで、算数言語を用いた表現力及び言語能力の育成を目指した授業を考えました。

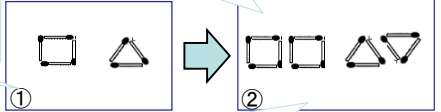


#### 【公開授業の様子】

#### (1) 生まれる「分かった」



正方形は4本で、  
三角形は3本。

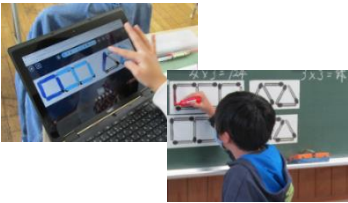


1本1本数えなくとも分かる。  
式にすると...  
 $4(本) \times 2(個) = 8$   
 $3(本) \times 2(個) = 6$

次の図と、そのマッチ棒を  
求める式が分かったよ。

「マッチ棒は何本？」と問い、①の図を電子黒板で提示、すぐに隠す。教材を瞬間的に隠したり見せたりするICTのフラッシュ効果を導入して活用し、学びに向かう子どもの主体性や問題意識を焦点化させる。その後、②の図を提示し、子どもにどのようにしてマッチ棒の数を判断したのかを尋ね、図と式をつなげて考えさせる。

#### (2) 増える「もう一つ分かった」



え？予想していた並びと違う。



10本と7本。予想と比べて2本少ない。

足りない2本はどこ？

四角形が1つ増えたら、マッチ棒の数は...

③の図を提示し、ロイロノートを使って、図形の数とマッチ棒の総数の関係について考える。その際、どのような手順でマッチ棒を数えたのが友達に伝わるように、図に色をつける。その後、ペアで話し合わせ、言葉・図・式を行き来しながら数学的に表現し合う場面を仕組むことで、子どもたちの言語活動の充実を図る。

#### (3) 膨らむ「考えが広がった」



ええー！数えるのが大変。

正方形と三角形の数を教えて！

何で個数が知りたいの？

正方形の数が分かれば、計算で求められるよ。



④の図を提示して「なぜ図形の個数が知りたいのか」と問い、何の情報に着目すれば、答えがはっきりするのかという問題意識を促し、思考を焦点化させる。その後、「正方形50個では、マッチ棒は何本になるか考えよう」と問いかけ、それぞれの仕組みを式に表す。

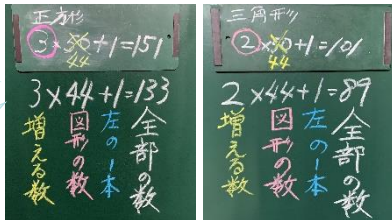
#### (4) 深まる「やっぱりそうだ」



+1の1は、図ではどこの部分？

3は？

言葉の式にすると？



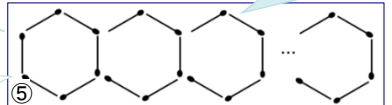
子どもたちがどのように求めたか、式を発表する。考え方によって式は異なるが、二つの求め方で似ている点はないかを考えさせる。「どこが同じ？」「違いはどこ？」と問いながら、子どもたちの気付きを促し全体で共有する。さらに、言葉の式に表すことで、より似ていることの理解も深まる。

#### (5) 変わる「違う考えが見えてきた」



五角形でもできそう。

他の図形でもできそう。



じゃあ、六角形だったら？

「他の図形でもできそう」という子どもの発言から六角形が並んでいる⑤の図を提示し、オープンエンドで授業は終了した。授業後には、畠山研究員の近くで、子どもたちが説明し合う姿も見られた。

振り返りから

#### 【参観した研究員より ~自己の学び・研究につなげたいこと~】

- 言語活動というのは、日々の授業の積み重ねであること、授業者がそれぞれの教科で身に付ける言語活動を意識して使うことが大切であることを学んだ。
- 多様な考えや思考を引き出すためには、課題提示の仕方や児童の興味を引くような問題場面の工夫が必要であると思った。このような場面設定をすることで、「主体的・対話的で深い学び」につながると感じた。

#### 【畠山研究員からの振り返り】

正方形の場合の見方を三角形の場合にも関連付けて考察し、統合的に捉えることで一般化を図りたかったが、その過程に十分な時間をかけることができなかった。今後は、単元の特性を理解し、内容の系統性や本時で身に付けさせたい力を明確にした上で、児童の思考言語の充実に向け、更に研究を深めていきたい。

「豊かな部落史学習を子どもたちに 一人権教育・部落史学習のカリキュラムをつくる」

講師：和気地域史研究会 外川 正明 さん



系統的・計画的な人権学習プログラムを地域ぐるみで作成しましょう

## 保・幼・小・中

### 15年間を貫く人権学習プログラムの作成を

確かな人権認識と実践力をもった子どもたちの育成

教職員の資質(人権認識・教育実践力)の向上



#### 人権としての教育

教科を軸とし、教育のあらゆる場面を通して、全ての子どもたちに

- 教育機会の絶対的保障 (機会の平等)
- 確かな学力の保障 (結果の平等)

どの子ども教室にいるかな？  
文章が理解できているかな？

#### 人権教育授業研究

##### 保・幼・小・中での授業研究会

- 検証軸, 研究協議の軸
- 人権教育カリキュラムに沿って授業を公開

教材理解の深さ  
子ども理解の豊かさ  
指導の確かさ

#### 人権を通しての教育

特別活動を軸としつつ、学校教育のあらゆる場面を通して、全ての子どもたちに

- 一人一人が徹底的に大切にされる関係づくり
- 安心し自信をもって過ごせる環境保障

あれ、いつもこの子の意見に全体が流されていないかな？

どの子のどんな発言も、大切にされているかな？

#### 人権についての教育

- 保・幼・小・中一貫したカリキュラム
- 道徳科を中心とした人権学習プログラム
- 小6から中学校につながる部落史学習プログラム

- 目標の一貫性(地域ぐるみで同じ目標で)
- 内容の系統性(この学習はどの学習につながるか)
- 指導の継続性(一貫した指導方法で)

## 道徳で人権学習を！！ (二つの方法から)



① 道徳科の教材で人権の観点から授業を行う。  
例：「るっぺどうしたの？」(小学2年生教材)

子どもたちに違うメッセージを伝えてみましょう！

るっぺの行動はわがままだ → 節度, 節制	るっぺの行動には理由があるはず。話を聞こう。 → 親切, 思いやり
-----------------------	-----------------------------------

自分の周りにもいるかもしれない、るっぺの人権を大切にするならば、教材を見つめ直すことが大事！

② 道徳科の内容項目を人権の視点から設定し直しこれまで実践してきた人権学習教材に位置付ける。

人権学習地域教材 「保育園ができるまで」 「教科書無償運動」 「識字はたから」 「〇〇こども会」 「市民会館」	地域教材は宝・財産！	人権教育副読本 「にんげん」(大阪府) 「なかま」(奈良県) 「かいほう」(高知県)
--	------------	---

地域・学校の実態に合わせて、道徳科の内容項目を設定する。

## 部落問題学習のすすめ (三つのポイント)



① 部落史を学ばないと理解できないのか？  
→ 平安時代のことを詳しく知らなくても、昔話の「一寸法師」の話が理解できるように、「部落問題だ」という認識がなくても、これまでの事実を知り自分の生活や経験と重ね、深く考えることで人権感覚の素地がつけられる。それらの積み重ねが大切だ。

② 「差別と闘う」とは？  
→ 汚染一揆や水平社運動のように、団結し声を上げるだけでなく、日々の生活の中で感じる不合理や矛盾に対して、悔しい思いをしながらも、いつか解決したい、必ず理解させたいと生きる姿は、立派に「差別と闘っている」といえる。

③ 「部落問題を教える」ということは？  
→ 子どもたちは「具体」から「抽象」へと学んでいく。小学校では、差別の中をたくましく生き抜いてきた人々の営みを知り、中学校においては、小学校での学びの上に立ち、用語も含め、部落差別に関する正しい理解を深める。

#### 【受講者の感想】

- 道徳科の教材を人権教育の視点から検証し直すことが大切であると理解できた。ただ、教材を指導書のとおりやることで、こちらがよかれと思い、伝えていることが逆効果となる場合もあることが分かった。
- 小学校から中学校への縦のつながりを意識した指導の実現のため、教育計画の見直しや支部人権研修会の内容について関係の先生と一緒に計画を立てていきたい。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。